がん化学療法レジメン登録票

レジメン名	DLd	
診療科名	血液·腫瘍内科	
診療科責任者名	末永 孝生	
適応がん種	再発または難治性の多発性骨髄腫	
保険適応外の使用	□有 ■無	

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	MM-18
登録日・更新日	2017年11月28日登録・2021年6月22日更新
削除日	
出典	N Engl J Med 2016; 375:1319-1331 ダラキューロ適正使用ガイド
入力者	伊勢崎 竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

1コースの期間

1-2サイクル						
	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ (遺伝子組換え) (ダラキューロ配合皮下注)	1800mg/30000 単位	1800 mg/body 30000 単位/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(皮下)	3~5 分	day1、8、15、22
No.2	レナリドミド (レブラミドカプセル)	5mg	25mg/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1-21
No.3	デキサメタゾン (レナデックス錠)	4mg	40mg/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1、8、15、22
	·					·

3-6サイクル						
	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ (遺伝子組換え) (ダラキューロ配合皮下注)	1800mg/30000 単位	1800 mg/body 30000 単位/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(皮下)	3~5 分	day1、15
No.2	レナリドミド (レブラミドカプセル)	5mg	25mg/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1-21
No.3	デキサメタゾン (レナデックス錠)	4mg	40mg/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1、8、15、22

7サイクル以降						
	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ (遺伝子組換え) (ダラキューロ配合皮下注)	1800mg/30000 単位	1800 mg/body 30000 単位/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(皮下)	3~5 分	day1
No.2	レナリドミド (レブラミドカプセル)	5mg	25mg/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1-21
No.3	デキサメタゾン (レナデックス錠)	4mg	40mg/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1、8、15、22

投与間隔の短縮規定	□短縮可能(日)·■短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%
減量・中止基準	【開始基準】 - 将甲球製 ≥ 1,000/mm ⁻³ 3、血小板製 ≥ 75,000/mm ⁻³ 3、ヘモグロビン ≥ 7.5g/dL AST ≤ 82.5[U/L、ALT ≤ 105IU/L、総 部 ≤ 1.5mg/dL、Cor ≥ 30mL/min 【減量基準】 血小核製 < 30,000/mm3、好中球数 < 5000/mm3 回復するまで休業する。回復後 1段階減量して投与を再開できる。 ◆レナバドドの用量調節の目安 - 25 mg 1段階目 15 mg 2段階目 10 mg 3段階目 5 mg 【休寒基本 5 mg 【休寒本 5 mg 【休寒本 5 mg 【休寒本 5 mg 【 1.fntusion Reaction 3 mg・対・カースと。 - Grade 3 (0)mfusion reaction (3 回発現)・投与を中止すること。 - Grade 4 (0)mfusion reaction: 投与を中止すること。
前投薬	デキサメタゾン20mg+アセトアミノフェン500mg+ジフェンヒドラミン20~30mg(±モンテルカスト10mg:1サイクル目 Day1)
その他の注意事項	・慢性開塞性肺疾患若しくは気管支端息のある患者又はそれらの既住歴のある患者には、投与後処置として気管支拡張薬及び吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・モンテルカスト10mgの投与についてはInfusion reactionの呼吸症状が懸念される場合、投与を考慮する。 ・レナリドミド投与期間中は、深部静脈血栓症予防のアスピリン、抗凝固薬等を投与する。 ・帯状癌疹の予防として、アシクロビル又はパラシクロビルおよび抗生剤(ST合剤等)を投与してもよい。 ・Infusion Reaction予防のデキサメタゾンは、総役与量に応じて減量可とする。
	100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

28日

記入者	伊勢崎 竜也		
確認者	竹内 正美		